

モモ・スモモ

佐賀県果樹試験場 落葉果樹研究担当

前山 美和



開花から収穫までが勝負です。適期適正管理に努めてください。

三・四月の管理

モモ・スモモは開花から収穫までの期間が短いため、この時期の管理が最も重要となります。

晩霜害対策のためにも日々の気象情報に注意しながら、今後の管理を行ってください。

共通管理

晩霜対策

満開期から幼果期にはマイナス〜二℃で被害が発生します。霜が発生するようであれば、以下のような対策を講じてください。

◆事前対策

冷気が溜まらないよう防風林の整理やすそ部の刈り込みを行います。また、敷ワラや雑草を

除去し、地中からの熱の放射を促します。

◆被害回避対策

・燃焼法
ストーブや温風ヒーターを利用します。

古タイヤなどの燃焼は禁止されているので絶対に行わないでください。

・散水氷結法
大量の水を散水することで0℃を保つことができます。

◆事後対策

被害を逃れた花への人工授粉の徹底や、摘果を遅らせるなどの対策が必要が必要です。

病害虫防除

気温の上昇につれ、病気の伝染や害虫の発生・加害が活発となるので、次の防除を行ってください。

◆モモ

三月上旬（発芽前）
石灰硫黄合剤七倍

四月中旬（落花後）

デランフロアブルー、〇〇〇倍
アドマイヤー水和剤
一、〇〇〇倍

◆スモモ

三月下旬（開花始）
ロブライル水和剤一、五〇〇倍

四月中旬（落花後）

ダイアジノン水和剤
一、〇〇〇倍
ベルクート水和剤一、〇〇〇倍

摘 蕾

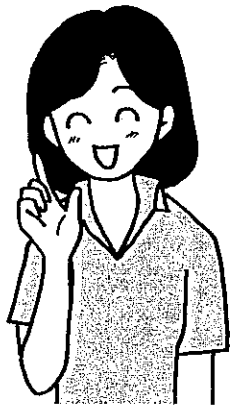
モモは着花数が多い作目ですが、実際にならせる果実量は全着花数の五％程度です。

したがって、摘蕾を徹底することが、貯蔵養分の消耗を抑えて、果実や新梢の初期生育を良くすることにつながります。

また、摘蕾を行うことで摘果作業の軽減と強摘果の回避にもつながりますので、摘蕾を主体とした着果調整に努めてください。

摘蕾の時期は、蕾がやや膨らんできて、わずかに赤みを帯びた頃が効率がよく、花卉が見え始めると落としづらくなります。第一図を参考に実施してください。

摘蕾の程度は、若木や樹勢が強い樹では少なめに落とし、樹勢が弱い樹では多めに落とししてください。



晩霜害対策として、事前事後対策を徹底し品質・収量への影響がないようにしてください。

また、摘蕾の際には葉芽を傷めないように注意しましょう。

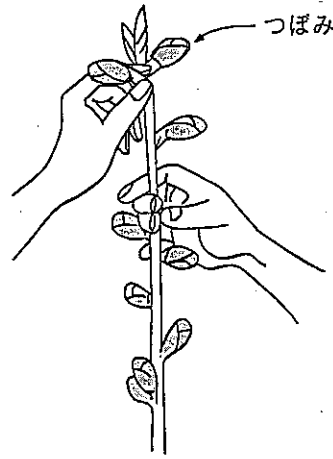
人工授粉

開花期前後が低温であれば、自家結実する品種でも結実不良となります。

確実に結実させるためにも人工授粉は必須作業となります。

◆花粉の採取方法

花粉が多い品種（白鳳系）の花を受粉三日ごろに採取します（開花前後に一〇aあたり二〜三kgを目安にしてください）。



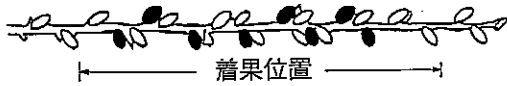
先端部と基部の花芽を取り、中ほどを中心に6〜8個の花芽を残す

先端部と基部の花芽を取り、中ほどを中心に3〜4個の花芽を残す

基部の花芽を取り、先端部の位置のよい花芽を1〜2個残す

- △：葉芽
- ：残す花芽
- ：取る花芽

長果枝（30〜50cm）



中果枝（15〜30cm）



短果枝（5〜15cm）



第1図 摘蕾の方法

採取した花粉はふるいを使って薬を集め、直射日光の当たらない暖かい場所（二〇℃）に広げ、黄色い粉になるまで待ち（約一〇時間）、乾いたら冷蔵庫などの低温乾燥する場所に保存します。

◆授粉の時期

五分咲きと満開の二回行うのが理想ですが、一回しかできない場合は、八分咲きの頃に実施してください。授粉は風のない暖かい日の日中に行いましょう。

◆授粉の方法

石松子を用いて花粉を増量（二〇〜三

〇倍）し、筆または毛ばたきを使って着果させたい部位に丁寧にこすりつけます。

授粉の程度は必要着果数の二〜三倍の花とします。

芽かき・摘芯

樹勢が適当な場合は混み合っている部分のみ芽かきを行い、あとは摘芯や捻枝で対応します。

樹勢が強いと徒長枝の発生も多くありますが、過度な芽かきが行わず、やがて徒長枝となるものも数本残し、誘引や捻枝、摘芯を多くします。

樹勢が弱いと徒長枝の発生本数が少ないので芽かきは必要ありません。捻枝、誘引、摘芯で極力葉数を確保します。

大きな切り口や主枝・亜主枝の背面、屈折部周辺の陰芽から発生した新梢は徒長枝になりやすいので、養分の浪費を防ぐため早めに処理してください。

ただし、日焼け防止や主枝・亜主枝の更新に利用する場合は、中程度の新梢を残し捻枝などを行います。

今年度の果実肥大促進、翌年の結果母枝の確保などのために摘芯を行います。

時期は満開後四〇日（五月上旬）と収穫一〇日〜十五日前の二回で、新梢の基部に葉を五枚ほど残して切

ります。

摘芯後に副梢が発生し、これが翌年の結果母枝になります。摘芯を行う時は以下のことに注意してください。

- ① 主枝・亜主枝の先端は養分を引く張るポンプ役となるので切らない。
- ② 副梢が伸びすぎたら再度同様に摘芯を行う。

摘果

摘果の際の注意点としては、一度に落とすぎないことです。

強摘果による核割れなどを防ぐため、予備摘果・本摘果・仕上げ摘果の三段階に分けて行います。

摘果の程度は樹勢によって調整が必要ですが、概ね以下の通りです。

- ① 予備摘果（満開後二〜三週間）全体の八〇％程度
- ② 本摘果（満開後四〇日頃）全体の一五％程度
- ③ 仕上げ摘果（満開後七〇日頃）全体の五％程度

特に白鳳系は実どまりが良いので、着果過多には注意してください。

スモモ

スモモは自家結実性が弱いので、親和性のある品種の受粉が必要です。そのためにも人工授粉を行います。